

令和 6 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4 年間の目標 (令和 6 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3 月 19 日実施)	総合評価 (3 月 31 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①粘り強く学習に取り組ませるとともに、学習内容を振り返って調整し、探究心を持って学びを深めようとする態度を培う。 ②主体的、対話的で深い学びを目指した授業改善を遂行し、生徒が自己の学びを適切に発信する表現力を育成する。	①学習目標や評価の基準を明確に示すなどして自ら学びに取り組む態度を引き出し、主体的で対話的な深い学びを創出する。 ②ICT を適切に活用するとともに、対話や発表の機会を多くし、表現力の向上を図る。	①単元の学習目標を明示し、議論やグループワークなどの活動を通じて、自身で考えて、意見まとめて述べる機会を多く設定する。 ②研修や情報交換等を通して組織的な授業改善や ICT の効果的な活用について検討するとともに、対話や発表する機会を積極的に設け、表現力の育成につなげる。	①授業評価において、「自分の考えをまとめ、課題の解決方法について深く考える場面がある」の評価 4 が過半数を超えたか。 ②授業評価の「他者の考えを知ること自身知識や考えを広げ深めている」点について評価する 2 項目において学校全体の平均が 3.4 ポイントを超えたか。	① 「自分の考えをまとめ、課題の解決方法について深く考える場面がある」の評価 4 が 50.3%となり、過半数を超え、評価 4 と 3 の肯定的意見が 94.3%であった。 ②評価する 2 項目においては 1 項目については、学校全体の平均が 3.4 ポイントを超えることができた。	昨年前期は 3.31、後期 3.42 だったので向上したが、「他者の考えを知ること自身知識や考えを広げ深めている」に関する 2 項目の評価では、昨年並みの評価に留まったので、引き続き表現力の向上に力を入れた授業改善を推進する。	授業における一人 1 台端末やプロジェクターの活用状況及び導入が予定されている電子黒板の活用について、教員の負担感があると思うが、是非とも活用を推進していただきたい。 各教員が授業展開を工夫し授業改善に取り組んでいる様子がよく分かった。	2 項目で目標は僅かに達成できなかったが年々上昇している。 来年度もさらに授業改善に取り組みたい。 グローバル教育指定校として 3 年目が終了学校全体での取組となるように、グループ間、教科間で情報を共有しながら、引き続き授業改善を推進していきたい。	授業内での生徒の活動を積極的に取り入れ、特に、他者の意見を聞き、自分の考えを修正して学習の改善を図る活動を重点的に行うことを目標の一つとして設定したい。 生徒が自分の考え方を他者にわかるように説明する取り組みを進めることで、理解度が深まるという仮説のもとに、事業改善に取り組んでいく。
2	生徒指導 ・支援	①生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな教育相談体制を充実し、安心して高い目標に挑戦できる学校づくりを進める。 ②生徒の心豊かな人間性、規範意識を高める。 ③特別活動等を通じて、他者と協働して集団のために貢献できる力を身に付けさせる。	① S C や S S W との連絡調整を確実にを行い、生徒の課題解決につなげるための支援を行う。 ②安心で安全な学校生活を過ごすために、交通安全や服装等の指導を徹底し、また、思いやりの心を育てる取組を推進する。	①養護教諭や教育相談コーディネーター等の教育相談担当職員が中心となり、相談の振り返りや支援方法の検討等し、組織的な生徒・保護者支援による課題解決を図る。 ②交通安全指導及び服装指導を、年間を通して計画的に実施する。	①教育相談の結果で「問題が解決した」「好転している」など、課題解決につながったケースが過半数を超えたか。 ②交通安全指導及び服装指導について、昨年度より多く実施できたか。	①教育相談 (161 件) の結果、「問題が解決した」「好転している」が 85% (130 件) となり、課題解決につながったケースが過半数を超えた。 ②従来の交通安全指導 (年間 10 週) に、服装指導 (年間 10 日) を新たに加え、昨年度より多く指導を実施できた。	「かながわ子どもサポートドック」によるプッシュ型面談の実施が影響し、相談件数が増えた。 年間 10 回程度の自転車通学指導に加え、服装指導を実施。危険運転やマナー違反等の指導に加え、制服の不適切な着用についても生徒の規範意識を高めることができた。	大磯高校は全体として良い方向に向かっていると評価できる。 15%の生徒の課題は未解決ということであるが、その要因についてはどのように分析しているか。	対応件数は昨年度より増加 (107 件⇒171 件)、教育相談の 85%で「解決した・状況が好転した」となり、目標を大きく上回った。 家庭の問題や人間関係の構築に課題がある生徒が増えており、改善が難しいケースも多数ある。 通学中の走行マナーについて、近隣住民からのご意見も複数寄せられており、大きな事故には至っていないが事故も一定数ある。	スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーとの連携を一層強くし、課題の早期発見と情報共有をさらに深めていく。生徒同士のコミュニケーション力を向上させる取り組みについては、入学当初から積極的に働きかけを行い、仲間づくりを推進する。 交通安全指導については、保護者や地域とも連携を深め、引き続き交通安全教育を推進する。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが、進路意識を深めることのできるキャリア教育の充実を図るとともに社会貢献意識を醸成する。 ②生徒個々の学力及び進路、受験に関するデータ分析を行い、それを学校全体で共有し、活用するための方策を工夫する。	①生徒だけでなく保護者、教員を含めた学校全体で高い目標、進路意識を掲げるよう取り組む。 ②模擬試験や進路希望調査等のデータ分析を踏まえて、より高い目標を持たせるための取組を推進する。	①学校全体でより高い進路意識をもつことができるよう、各種ガイダンスや講習、インターシップ、面談、大学訪問等の取組を組織的に実施する。 ②各種データを分析しながら、生徒がより高い目標を持つために必要な情報を、対面での説明会やオンラインでの情報配信など、様々な手段で提供する。	①進路に関する各種取組の組織的実施が、学校全体がより高い目標や、進路意識を持つことに寄与することができたか。 ②各種データの分析結果など、生徒がより高い目標を持つために必要な情報を様々な手段で提供し、生徒によるより高い目標の実現に寄与することができたか。	①各種ガイダンスや講習、インターシップ、面談、大学訪問等の取組を組織的に実施し、生徒に加え保護者、教員を含めた学校全体で高い目標、進路意識を持つことができるように努め、生徒や保護者から一定の反応を得た。 ③各種データを分析しながら、生徒がより高い目標を持つために必要な情報を様々な形で配信し、難関大学への受験者および合格者増加に寄与した。	外部からも講師を複数回招き、最新の進路情報も提供できた。 指定校推薦の応募方法を改訂し、第1志望だけに希望を出せるようにした結果、成績上位者が指定校推薦を希望することが減るなど、意識の変化が見られた。 一部の大学では合格者が減っている原因を分析し、来年度につなげていきたい。	グローバル教育の研究指定と進学状況、進路脂肪の傾向には関係性が見られたか。 進路指導について職員の共通意識、横並びでの指導が功を奏しているのではないかと思う。	生徒・保護者を対象としたガイダンスを様々な形で実施した。 今年度は進路説明会の動画配信などガイダンスの形に工夫をし、意識の向上を図り、上位の大学を目指すという意識が高まった。 夏休みには夏期講習を23講座実施することができた。国公立大学の合格者は、昨年度は5名が今年度は横浜国立大学を始め8名の生徒が合格した。総合型選抜や学校推薦型選抜などの「年内入試」で合格した生徒が昨年度は110名だったが、今年度は124名が進路先を決定した。また、早稲田大学は昨年度2名が今年度6名合格、明治大学は昨年度8名が今年度12名合格など、その他難関大学でも健闘をした。	次年度も、保護者のニーズをくみ取りながら、きめ細やかなガイダンスを実施していこうと考えております引き続き、面接指導や小論文指導など、生徒に対しきめ細やかな指導を行ってまいります。 2年間取り組んだ atama+模試からベネッセや河合塾の模擬試験に変更する。スタディサポートを導入し、全国水準での情報の共有と指導の改善を図る。
4	地域等との協働	①様々な面で地域との連携を強化し、社会に開かれたカリキュラムマネジメントを推進する。 ②地域と連携して防災体制の整備に努めるとともに地域の環境美化にも積極的に取り組む。	①町や地域の団体を含め外部機関や保護者との連携を活性化し、この成果を探究的な学習の推進に役立てる。 ②自治体等と連携し、防災意識を高める訓練とともに、海岸清掃活動などの奉仕活動も積極的に行う。	①町や地域の伝統行事に学校として積極的に関わり、地域探訪等の探究的な学習に結びつける。 ②様々な状況を想定した防災訓練、地域・自治体と連携した訓練を実施し、防災意識を高める。また、PTAと協働した海岸清掃等を行い、ボランティア意識の高揚を図る。	①町や地域のニーズに合った参加人であったか。探究的な学習に結びついたか。 ②地域・自治体と連携した防災訓練が実施できたか。海岸清掃等の参加ボランティアの人数が前年度より増加したか。	①地域の活性化のために何ができるかというテーマで1年生が探究活動を行った。また、麻布大学・大磯町との連携協定を締結し、里山の再生と環境保護等の活動を活発に展開することができた。 ②大磯町と連携してノジマスクエアでの宿泊防災訓練、東町自治会と連携した避難訓練などを実施した。海岸清掃での多くの生徒保護者の参加により、例年通りの活動ができた。	総合的な探究の時間では、大磯町に関する調査を踏まえて探究活動を行いグループで発表を行った、が、探究課題の設定に問題が残った。 津波を想定した避難訓練については、校舎の上の階への避難を前提としているが、周辺住民の受け入れ場所など、検討すべき課題がある。	高麗の山神輿に多数の生徒が参加していただいたことに感謝している。今後もよろしく願いたい。 東町地区は津波ですべてが水没すると想定されている。地区では11月に海拔の高い場所への避難訓練を実施し、一部の生徒の参加も予定されている。	北浜海岸での左義長なども含め、地域行事の活性化のために生徒の参加が期待されているが、部活動などもあって広く多数の生徒の募集を期待することは難しい。 校舎の構造上、津波への耐性が懸念されており、津波避難ビルの指定は解除されたが、周囲に高いビルがないことから、生徒も含め校舎内での避難が現実的である。	生物同好会やtea cook 同好会の生徒が積極的に連携事業に参画し、島根県美郷町での宿泊研修にも13人が参加した。こうしたイベントだけではなく、地道な連携を広く広げていくことが、地域との絆を深める契機になると考えられる。 DIG訓練は継続的に実施し、実際に生徒が避難路を歩く訓練を行うことを検討したい。
5	学校管理 学校運営	①事故・不祥事の防止を徹底する。 ②ICTを活用して校務の一層の効率化を図るとともに、個人情報保護などの取組を推進する。 ③WEBサイトや学校説明会等における情報発信を適切に行う。	①事故・不祥事防止に係る職員の意識向上を図るため研修会などを適宜行う。 ③WEBサイトの情報更新を適切に行い、本校の魅力を適切に発信する。また、学校説明会や部活動見学などの広報活動を職員全体の協働によって行う。	①職員が提案者となる事故不祥事防止研修会を定期的・継続的にを行い、各自の規範意識を高める。 ③学校行事実施後、速やかにHPを更新し、本校の教育活や魅力を発信する。学校説明会、部活動見学、授業公開など広報活動を充実させる。	①事故不祥事防止研修会を月1回開催することができたか。管理職による面談を年2回以上実施できたか。 ③学校説明会等のアンケートにおいてHPから適切な情報を得ているという肯定評価が80%以上達成できたか。	①事故不祥事防止研修会を毎月の職員会議に合わせて実施した。また、定期試験等に合わせて随時実施をし、月1回以上開催することができた。管理職による職員面談を全職員について年2回以上実施できた。 ②学校説明会等のアンケートにおいて学校HPから適切な情報を得ているという肯定評価が95%以上であった。	事故不祥事防止研修会を毎月の職員会議に合わせて実施した。また、定期試験等に合わせて随時実施をし、月1回以上開催することができた。管理職による職員面談を全職員について年2回以上実施できた。	PTAとしても大磯高校の魅力を適切に発信していきたい。	事故不祥事を他人事ではなく自分事として考えるという取り組みは定着したが、管理職を含めて多くの職員の人事異動があり、風通しの良い職場づくりについては改めて取り組みを進める必要がある。 広報活動は休日の出勤が多いことから広報グループの構成員だけでは対応が難しい。全員での協力体制が不可欠である。11月の授業公開は想定ほどの参加者がなかった。	入学者選抜では合格発表時の要因の配置を改善したことにより円滑に業務を行うことができた。マニュアルの点検を入念に行い、次年度も引き続き事故のないようにしたい。 次年度も休日の授業公開を予定しているので、効果的な周知活動を行い、大磯高校の魅力を適切に発信していきたい。

